

平成22年
8月20日発行

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。



銀座8丁目の交差点付近に残されている親柱。汐留川はちょうど高速道路と同じ方向に流れていた...



昭和13年の新橋。親柱が写真右に見える
※モノクロ写真は「増補 写された港区 ― (芝地区編)」
(編集・発行：港区教育委員会)より転載

そして昭和7年(1932)、新橋は初めて当時の芝区の町名となり、昭和40年(1965)に現在の住居表示の町名になったものの、橋自体は昭和39年(1964)、川の埋め立てのために消失しました。町は大きく変化し、川も橋も現在では見るこゝとができなくなりましたが、かつて多くの人が利用した「新橋」は、町の名として今でも人びとに親しまれています。

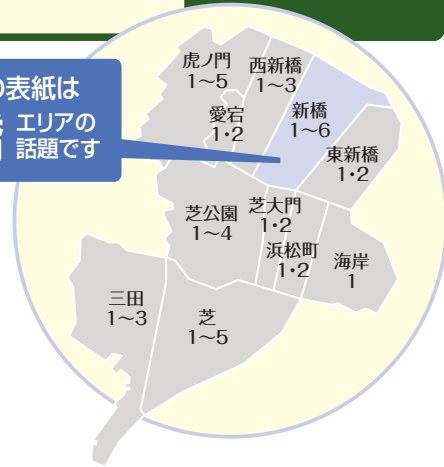
かつて、アーチ橋が架かっていた...

「新橋」その名の由来

新橋演舞場や新橋花街があるのはその名残です。それが港区(南側)の地名になったのは、明治5年(1872)に日本鉄道起点新橋駅(現東新橋の旧新橋停車場)ができたためと考えられています。



第16号の表紙は
新橋 エリアの
話題です



かのぼる非常に古い橋の一つというところから橋の付近、とくにその北側の地(1710)ころから橋の付近、とくにその北側の地を「新橋」と呼ぶようになりました。今も橋北の中央区に新橋演舞場や新橋花街があるのはその名残です。

オフィスビルや商業ビルが立ち並び、多くの人でにぎわう新橋ですが、町名は、その名のおり「橋の名前」に由来しています。
「新橋」は汐留川に架けられた橋で、「芝口橋」とも呼ばれていました。現在は、橋の形はすっかり失われ、橋があった場所の上には埋め立て前の川なりに高速道路が走っています。
汐留川はその昔、江戸城を築く際、外堀の一部として埋め残した川で、新橋はそのときに架けられたといわれています。新橋とはいうものの、その由来は江戸時代にさかのぼる非常に古い橋の一つというところから橋の付近、とくにその北側の地を「新橋」と呼ぶようになりました。今も橋北の中央区に新橋演舞場や新橋花街があるのはその名残です。



新橋の親柱跡
新橋1-6(銀座8丁目
交差点)付近

色に託して願いを掛ける...

からずもり
〜『烏森神社』は心癒される場所〜

烏森神社に「心願色みくじ」というカラフルなおみくじがあるということで、宮司の山田さんにお話を伺いました。

「心願色みくじ」は烏森神社独自のもので、願い事の内容によりおみくじと「願い玉」の色が違います。色は恋愛・良縁運は赤、金運は黄色、家内安全・健康は緑、仕事・勉強は青の4色があり、とても鮮やかです。新橋の真中という立地ゆえ神社周辺は防火地域に指定されており、社殿も周囲の建物同様コンクリート造りになっています。そこに「彩り」を入れようと、カラフルなおみくじを始めたそうです。

運は目に見えないものですが、神社に向いて何かを願ったり、家族の安全を思ったりすると、人と人とのつながりを感じるきっかけが神社で見つけられるかもしれません。また、お願い事を持つということは未来に希望を持つことにもつながっていくような気がします。色には心を癒すセラピー効果がありますからお花がたくさんある境内でお参りして、「色みくじ」をひいて、お守りを持つということは癒しのひとつといえるのかもしれませんが。

烏森神社の場所が武蔵国桜田村と呼ばれていた古い時代、この辺りは江戸湾の砂浜で松林が広がっていました。そのためこの地帯は「枯州の森」などと呼ばれていました。また、松林にはカラスがいたため「烏の森」と呼ばれるようになり、烏森の地名が定着したともいわれています。その後、明治以降昭和7年(1932)まで町名は烏森が使われていまし

た。現在、地名は「新橋」になり、JR新橋駅烏森口にその名が残っています。また、烏森神社が港区のちいばすのバス停となったのでにわかに地名が復活したようにも思えます。「新橋駅のすぐそば、様々な人が訪れてくれる神社でいろいろと新しい試みをして、受け入れていただき地域との密着性を高め、地域の活性化につなげていきたい」と宮司の山田さんは話します。

参道には参拝者のためのお休み処があり、あんみつやとろろ、ランチもいただけます。

ここで健やかな心で人を思いやる気持ちを高めたら、見えないものの力が運を引き寄せてくれるかもしれません。「烏森神社では港区のこの場所から新しい神社の文化を発信するべく、季節ごとに行事ののびりをかけ、皆様のお越しをお待ちしています」とのことでした。

【文 ■ 小林 真紀子】
(写真提供：烏森神社)



烏森神社
新橋2-15-5

港区で
楽しむ
アート

10

横山大観のすさまじい思いを感じる「霊峰富士」

日テレタワー
2階ロビー



日テレタワーの2階ロビーは自由に見学できます

汐留に建つ高層ビル日本テレビタワーには、アニメーション作家の宮崎駿氏デザインの「日テレ大時計」の見学者やイベントに参加する親子連れに加えて修学旅行生等が見られ、ビジネスマンの姿が多い汐留の中では異彩を放っています。その2階ロビーの壁に、横山大観の「霊峰富士」があります。

一枚麗の越前和紙に描かれた縦254.5cm横455.5cmの超大作で、まるで航空機の窓から見たように、雪を頂いた富士山が雲を突き抜けてどっしりと在ります。平成15年(2003)4月同ビルが落成した時、グループ会社の読売新聞社から提供されました。

この作品は昭和14年(1939)10月、読売新聞社の新社屋落成を記念して5階講堂の正面壁面に飾られたもので、読売新聞10月4日付朝刊には「(前略)幅三間半縦二間の大額いつぱいに大観画伯の雄渾無比な筆力は霊峰の真姿をあますところなく表現し、芸術の香気はその大画面に高雅な光りを湛へるものをして胸中一脈の清爽高潔の気を生ぜしめる絶品である。(後略)」とあります。また、大観は「この画を生涯の大作として後世に残したいと考へ慎重に筆をおろし精根をつくして描きあげた」と話しています。

明治元年(1868)に生まれ、日本初の官立美術学校に第1回生として学び、昭和33年(1958)に没した横山大観は、明治・大正・昭和と日本の近代化の中で波乱万丈に生きた日本を代表する画家です。大観は生涯に千点以上の富士山を描いています。

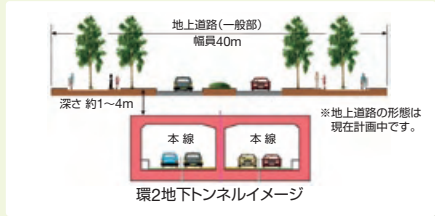
「(前略)富士を描くということは、富士にうつる自分の心を描くことだ。心とは、ひっきり人格にほかならぬ。それはまた気品であり、気はくである。富士を描くということは、つまり己れを描くことである。(後略)」 (横山大観・談「私の富士観」朝日新聞昭和29年5月6日付朝刊)

雲の上に端然と立つ富士山の姿を見ていると、全力を尽くして「富士」を描くという大観のすさまじい思いを感じました。

【文・写真 ■ 岩崎 秀頭】



日本テレビタワー
東新橋1-6-1



写真・図・東京第一建設事務所蔵

新橋にトンネルがあるって本当ですか？

あたら
愛宕通りから桜田通りに抜ける愛宕山のトンネルは有名ですが、昼夜問わずサラリーマンでにぎわう新橋の中心地近くに現在地下トンネルが掘られています。まさかこんな都心ど真ん中に、と思われるかもしれませんが、そのまさか起きています。

新橋から虎ノ門までの環状第2号線は、全長約13.5km、地上部40m幅の道路とその下を平行して走る地下トンネルが着工され、すでに第一京浜交差点の地下トンネルが完成し、日比谷通り交差点部ができています。工事を施工している東京都第一建設事務所の方は、「ご近所の皆様には騒音やご不便など、大変ご迷惑をお掛けし、またご協力いただいております」と話していました。環状第2号線完成の頃には、歩道幅の広い、緑のある地上部道路と、地下トンネルは片側2車線の通行空間となります。

この辺りは縄文時代は海で、現在は東京の都心部だけに難しい工事です。第一京浜道路の下には都営浅草線の地下鉄が、日比谷通りの下には都営三田線の地下鉄が通っており、地下トンネルはこれらとほぼ十文字に交わるので、交差点のトンネル工事は深度調整が大変なのです。環状第2号線の地上部道路と地下トンネルの間隔はどのくらいで、さらに地下鉄との順番はどうなっているのでしょうか。

調べてみたところ、第一京浜交差点部では、環状第2号線地

上部道路と地下トンネルとの間隔は約1mで、その下を地下鉄が通るようになっています。（※地上部道路と地下トンネルとの間にはさらに上下水道管、ガス管などの埋設管が入ります。）

日比谷通り交差点部では、環状第2号線地上部道路と地下トンネルとの間と同じく約1mで、地下トンネルと都営三田線との間には共同溝（上下水道、ガス、電気、通信などの管やケーブルを共同で収容する地下設備）が入り、地上部道路、地下トンネル、共同溝、地下鉄の順になっています。現代の技術の粋を集めて安全を図りながら、絶妙な深さでそれぞれを交わらせているのです。東京都によれば、環状第2号線道路の地上部と地下トンネル部の整備は平成25年度（2013）に完成を見通すとのこと。

60年余にわたって街を分断し、未完といわれた環状第2号線を抱え込みながら、新橋、虎ノ門の街は発展してきました。しかし、この新しい道路の着工とともに、地元の方に協力を得ながら、新橋、虎ノ門地域の一部に新しい街づくりが始まりつつあります。暮らしやすい豊かな地域になってほしいと思います。

〔文 ■ 森 明〕

info
環二工事事務所
新橋4-24-4
TEL 03-3578-0217

オランダ王国大使館 訪問記



緑あふれるオランダ王国大使館の中庭

日本との友好関係は400年にも…

2008年が日蘭修好通商条約締結150周年、そして、2009年が徳川幕府により日蘭貿易が開始されてから400周年という記念すべき年になることから、2008～09年には「日本オランダ年」として日本中が300を超えるイベントでにぎわったことを記憶されている方も多いでしょう。

今回は緑あふれる高台にあるオランダ王国大使館にて、報道・文化補佐官のバス・ヴァルクスさんにお話を伺いました。



報道・文化補佐官のバス・ヴァルクスさん

親しみやすいオランダのイメージ

オランダはヨーロッパの北西部に位置する人口1,600万人の王国です。北海に面した地の利を生かし、古くはロッテルダムなどの港町が栄えた経済大国でもありました。鎖国政策の江戸時代にあって、中国・朝鮮と並び、西洋の国では唯一貿易を許可され、「蘭学」は当時貴重な西洋の文化や学問を日本にもたらしました。

今回お話を伺ったヴァルクスさんは、長崎にある「ライデン大学ハウステンボス校」（現在は開校）の留学生として来日し、滞在8年目を迎えています。オランダと長崎の密な関係は現在でも続いているのです。

長崎の他に島根や京都にも滞在経験があり、日本各地を旅行して日本の伝統文化にも触れてこられたヴァルクスさんは最近では豊満・恐山に行かれたそうで、西日本と東日本の文化土壌の違いも大変興味深いとおっしゃっていました。今回のインタビューでは流暢な日本語で多方面にわたって話してくださいました。

黄色や赤に咲き誇るチューリップ畑と風車の牧歌的風景、美しい王宮、ゴッホのうねるような風景画、レンブラントの肖像画など、オランダは日本人にとってイメージしやすい国です。

では、オランダの人々は極端に位置する日本にどのようなイメージを抱いているのでしょうか？ やはり日本という経済大国、富士山、アニメ、武道、忍者、勤勉な国民性などの印象を持たれるようです。今は合気道もされるというヴァルクスさんも、柔道がきっかけで日本文化に興味を持たれました。現在でもオランダにおける武道の人気は大変高いそうです。

ワークライフバランス世界一

常に仕事に追われる私たち日本人にとって、プライベートな時間をどう生み出すかは頭痛の種です。オランダの人々はうまく調整しているとのこと、その秘訣をお伺いしたところ、いわゆる「公私の区別」が上手に機能しているそうです。おおむね定時退社でそのまま帰宅し、家族との

時間を大切にするとのお話は、私たち大いに学ぶところがありそうです。日本人のように勤務後、上司や同僚と飲みに行って終電で家路に着いたり、週末をゴルフ接待で過ごしたりといったこともないようです。

オランダはこの仕事と生活の調和、「ワークライフバランス」が世界一優れているとの統計も出ています。十分浸透した「仕事上の倫理」で職務にも励み、かつ家族や友人との時間もうまく作り出すという、日本人にとってはまさに「人生の達人」のように映りますね。「仕事と生活」の両立に優れているのはオランダ人気質に負うところも多いでしょう。何事も真面目過ぎずほどほどにという国民性は、私たちの良いお手本になりそうです。

このように自分の時間を大切にするオランダの人々ですが、家族や友人と過ごす以外は日本製のゲームに興じたり、インターネットなども余暇の過ごし方の上位にあるようです。社会貢献をする人々が多いのもオランダ人の特徴といえます。休日にはスポーツやボランティア活動に打ち込み、一層エネルギーを充電させて翌日からの仕事に向かうのです。

旅行先としては地中海沿岸が最も人気が高く、人口の大多数を占める1,500万人もの人々が国外に出かけるそうです。

教育と言語

義務教育は5歳（4歳からでも入学可）から始まり、12歳までの8年間は「初等教育」です。「中等教育」からは大学進学を目指す「大学進学準備コース6年」「上級一般コース5年」「職業訓練コース4年」の3コースに大きく分かれ、オランダの子どもたちは早くも将来を考えねばなりません。それぞれのコースの割合は1割、3割、そして6割だそうです。12歳という早い段階で将来の進路を決めるオランダの子どもたちは、早くから自立の心が芽生えるのでしょうか。

大学進学率は15%、またオランダ国民の85%以上が不自由なく英語を話します。公用語であるオランダ語の他に、北部の一部の人々のみ話す「フリースランド語」があり、現在40万人（全人口の40分の1）の人々が使用しています。小学校5年から英語の授業がはじまるのは日本と大差ありません。

しかし、オランダは地理的にイギリスに近く、また日常生活においても英語の使用頻度が高いことが日本の状況と異なるようです。またオランダ語は、英語と同じゲルマン語系に属し、さほど苦勞せず習得できるのがうらやましい限りですね。

第二外国語としては、欧州の各言語であるドイツ・フランス・イタリア語などの人気が高く、日本語を専門的に学ぶ学科があるのは、ライデン大学のみだそうです。

政治、経済、王室について

東京に一極集中している日本と異なり、オランダはアメリカやオーストラリアなどのように、政治・経済・文化機能を巧みに分散させています。首都アムステルダムは、もちろん文化の中心であり、王宮も置かれています。政治機能はデン・ハーグに集中しており、国際司法裁判所が設置されていることでも世界的に名高い都市です。

そしてロッテルダムなどの貿易港から、オランダが誇る半導体などの電子部品、軽油、タバコ（イギリスのタバコ「マルボロ」の工場はオランダにあります）、球根・切り花などが全世界において出荷されています。

日本企業のオランダへの進出も目覚ましく、300社を超えるそうです。

国民と王室との関係も大変良好で、君主（現在はベアトリクス女王）は内閣組閣へのアドバイスなども行い、オランダ皇太子殿下も私企業の役員を務めるなど、日本の象徴天皇制とは役割が異なるようです。

EUの中心軸としてのオランダと今後

EU（ヨーロッパ連合）創成期よりその運営に深く関わるオランダはマーストリヒトやデン・ハーグなどで国際条約が締結、国際機関が設置されるなど、EUの中心メンバーです。今後も一大ヨーロッパ市場を形成するEUとオランダの動向には我々日本人も目が離せません。

さて、オランダは先ほどの貿易品目で挙げた工業品のみならず、実はデザイン先進国でもあります。「うさこちゃん」といえばお分かりでしょうか？ そう、愛くるしいうさぎのミッフィーの生みの親はオランダ人のディック・ブルーナ氏です。実は今回、ヴァルクスさんはこの柄のネクタイでさそうと登場されました。日本の銀行のマスコットキャラクターに採用されたこともあるのですよ、と話すときほほえみながらヴァルクスさんの笑顔が印象的でした。

〔文 ■ 小知和 千佳子〕



これは「日本オランダ年2008-2009」を記念して描かれたオランダの絵本作家ディック・ブルーナ氏のオリジナルイラストで、公衆により命名された「ニコくん」は日蘭親善大使として活躍しました。
Illustrations Dick Bruna © Mercis bv, 1953-2010 www.miffy.com

info
オランダ王国大使館
芝公園3-6-3

芝の食文化

江戸名産の伝統ある保存食品

つくだに 佃煮

暑い日が続くとおいしい佃煮をのせたお茶漬けが何よりのご馳走ではないでしょうか。佃煮は佃島が発祥であることはよく知られています。天正18年（1590）に徳川家康が江戸に移るに際し、大坂の摂津西成郡佃村の名主、森孫右衛門と漁師34人を呼び寄せて日本橋に住ませ、江戸城の食料を賄うため江戸湾沿岸の漁業権と特別の保護を与えました。そして家光の代（寛永年間）には鉄砲洲東の干潟を埋め立て、佃島を造り天領にして漁師たちをここに定住させたのです。

江戸湾は浅浅でブランクンが多く豊かな漁場でした。特に冬から春にかけて大川（隅田川）に群生する白魚は特別の高級魚で、江戸城御用達として漆箱に入れて献上されました。夜な夜な篝火をたいて漁をする様子は江戸の風物詩の代表になり、「月も朧に白魚の、かがりも霞む春の空…や、こいつあ春から縁起がいいわえ〜」と、江戸歌舞伎にも演じられたほどでした*。

佃島の漁師は江戸城へ献納する魚の量が決められていて、余ったものはいかようにしてもよいとの許可が下されたので小魚、貝類、海藻、野菜豆類など食材を広げ塩やひしおで煮詰めて江戸市中で売りました。



あじの佃煮ふりかけ（夏季限定）写真右、坐禅豆（江戸以来のロングセラー）写真左下、葡萄あざり（和歌山県有田地方特産で葡萄の房のようになる山椒の美とあざりの佃煮）写真左上

この煮物が安くておいしいうえ、保存がきくと評判が広まりました。

やがて諸国の大名や武士たちが参勤交代の時にその煮物をお土産に運び、江戸の名産品「佃煮」として全国に知られるようになっていきました。また正保3年（1646）に大阪の住吉大社の分霊を移した佃島の住吉神社では、幕末ごろまで祭りの日に参拝者に御神酒と佃煮を出して振る舞いました。

佃煮の老舗「新橋玉木屋」は、天明2年（1782）、田巻七兵衛が寺のお坊さんから雁喰豆（岩手産）の煮方を教わり「元祖坐禅豆」と名づけて現在地で開業したのが始まりです。店の名は出身地越後の南蒲原郡、通称玉木屋の名をとって玉木屋としました。坐禅豆とは、豆の中央が少しくぼんでいるので坐禅を組んだ足に似ているところからそうように言い、歯ごたえがあります。黒豆の煮汁はのどによいとされ、お稽古前の芸者さんがよく買っていったそうです。

その後3代目が、天秤棒を担いで雑魚類を売り歩いている魚屋から雑魚類を仕入れ、佃島で名物になっている佃煮からヒントを得て独自の製法を開発し、店の中の工場で煮付けを売り出しました。当時は濃いめのしつかりした味付けでしたが、時代とともに少しずつ



本店を取り仕切る河鍋知平店長



歴史と風情が感じられる店舗

つ味付けも変化させています。

以来綿々と受け継がれ、現在の当主は9代目です。「佃煮は中高年の方には馴染み深い食品なのですが、若い人の中には普段あまり口にしない方もいらっしゃる。そのためイタリア風やタイ風グリーンカレー味など洋風のふりかけを開発したところ、若い世代のお客様にも広がりをみせています」と、田巻恭子営業本部長。佃煮としては画期的ないちじくを煮詰めたグラッセなど、ジャンルにこだわらず、あらゆる食材を使った商品開発を日々研究されているそうです。

江戸っ子の舌を魅了し、現在も東京の味として幅広い層から親しまれている佃煮の今後の進化が楽しみです。

〔文 ■ 千葉 みな子／写真 ■ 張南 光輝〕

*河竹黙阿弥・作三人吉三麻初賀「大川端の唄」参考文献：『善徳江戸時代の大八やり食』（田井支季子 著／農山漁村文化協会 1989）、『江戸美味い物語』（平野雅章 著／廣済堂出版 1995）、『日本大百科全書 15』（小学館 1944）

info
新橋 玉木屋
新橋1-8-5
TEL 03-3571-7225

芝活人

さまざまな分野でご活躍されている芝地区の皆さんをご紹介します

昭和の薫り漂う新橋路地裏 そこには人生の悲哀を包み込む、ギターの音色がありました

歌手・作曲家としてCDデビューも

芳賀 邦比庫 さん

新橋で7歳の頃から移り住んだ芳賀邦比庫さんは、幼少から音楽好きだったお母様と共にラジオから流れるメロディーに心躍らせ、14歳で12弦ギターの独習に着手しました。プロデビューを目指し、当時一世を風靡したジャズ喫茶銀座ACBを拠点とする人気ロック歌手守谷浩氏のかばん持ちをしながら勉強し、その後カントリーソングで活躍していたトミー・藤山氏のお手伝いをしながら、ヨーデルも勉強しました。

そんな下積み時代を経てもなかなか夢は花開かず、一度は音楽から離れ様々な職に就きながらも夢をあきらめず、昭和47年（1972）から新橋で12弦ギターの流しとしての活動を始めた。カラオケ導入のいちばん豊かな頃に新橋に戻ったわけ。昭和51年以降は流しがどんどん廃業していく中で、芳賀さんは内芸者を抱えているような大きな割烹から主に呼び取りのサラリーマンの接待向けの割烹なども多数存在し、焼肉で有名な「徳寿」の裏手には黒塚小路があり、幹筋で働く方々の静かなたすまいの邸宅が並んでいたようです。

時代としては経済も右肩上がり。花柳界も飲食店も、そこに集うお客たちもお遊びの暗黙のルールの下に、少し頑張つて背伸びをして過ごす…栄華を誇った、そんな時代の新橋を教えていただきました。

定し、文部科学省等にも今後売り込んでいきたいと、夢は確実に広がる芳賀さんです。

16歳から流しの世界一本道

須賀 慶四郎 さん

一方、「ケンちゃん」として須賀慶四郎さんはたびたびメディアで紹介されたので存じの方も多いのではないのでしょうか？

昭和37年（1962）16歳の頃から流しの世界一本道、世間の表も裏もまた悲哀も知り尽くし文字通り波乱万丈の人生を歩んできました。渋谷・恵比寿・三軒茶屋で流しの世界に入り、三千曲以上覚えることができたといふと立ちを許されず、5年のはかると言われる流しの厳しい修行期間を経て、大好きな街新橋にて昭和42年（1967）晴れて一本立ちを果たしました。修行中は、大先輩北島三郎氏のお誘いで千葉真一主演の映画に流しとして出演するなど、あらゆる経験を積んだ時期でもありました。

黄昏時の新橋に出て、呼びびがかかるとギター片手に悠々と路地を歩き数千曲のメロディーと歌声を運び毎日。流し一筋、「流ししかたことがない」という、やんわりとした、しかしいちすな確固たる信念に、感激し共鳴する人々が須賀さんの周りに集うのだと感じました。

煙をくゆらせ人懐っこい笑顔で、人生最大の財産はお客様と自分をかわいがってく



こいち祭りステージに立つ（左から）芳賀さん、大木さん、須賀さん

れるお店の人だと語ったケンちゃん。同行させて頂いた路地裏辺りではお店やお客はもちろんのこと、通りがかりの人から「ケンちゃん」と笑顔で握手を求められる大人気者です。お店では歌と笑いを織り交ぜて大盛り上りの演出をし、全身から奏でられるメロディーでお客様を酔わせて活力を与える、そんな須賀さんの包容力に時間の経過を忘れました。

それぞれの生きざまでも新橋路地裏文化にかかわってこられたお二人は、7月22日の「こいち祭り」では演歌歌手大木綾子さんとステージに立ちました。芳賀さんは「生命惜しみます」、須賀さんは「鳥森流し唄」と、それぞれ自身が作曲した持ち歌を熱唱し、夜には桜田公園で芳賀さん作曲の「七福神音頭」を大木さんが歌い、盆踊りが行われて大盛況のステージでした。

今ではすっかり様子が変わった鳥森辺りにもまだまだ昭和のよき時代の人情味あふれる空間が存在し、人々のたくさんの悲喜をもふわり包み込むお二人のギターの音色に何とも言えない人生の味わいを垣間見た瞬間でした。

〔文 ■ 天津 由理香／写真 ■ 張南 光輝〕

あの頃、戦争があった



中嶋弘さん・房子さんご夫妻は、お二人とも桜田小学校の卒業生です(弘さんは昭和12年〔1937〕入学、房子さんは昭和18年〔1943〕入学)。お二人は現在も「語り部の会」のメンバーとして、港区の小学校の依頼で戦争体験談を子どもたちに話して聞かせるなどの活動をされています。

今回はお二人に戦争当時の状況や、疎開、空襲、そして、まちの復興のお話を伺いました。

弘さんのお話

戦時中は芝地区で授業を受ける

私の場合は疎開に行かず、戦時中もずっと芝地区にいました。当時私は正則中学の生徒でしたが、戦争中も授業はあり、週1回は日比谷公園でゲートルの巻き方や銃剣の使い方を生徒みんなで練習していました。銃剣は学校に置いてあったのです。

今もなお体内に残る爆撃の破片

まだ戦争が始まって間もない頃、新橋駅から電車に乗って神田まで本を買に行ったことがありました。その時たまたま敵機の空襲に遭い、有楽町駅で降りて避難していたところに爆撃を受けました。私の体内には今でもその時の爆撃による破片が入りこんでいます。当時はまだ焼夷弾による空襲は始まっておらず、恐らく敵機が試行的に行ったものではないかと思います。

強制疎開の命令も受けた実家の外食券食堂

実家は「外食券食堂」(外食券*持参者に食事を提供するよう政府に指定された食堂)だったので、戦時中もそんなに食べ物に困ることはありませんでした。仕入れのとき、米俵などをリヤカーに積んで町中を歩いていると、周囲の人からうらやましそうに見られたこともあります。お店は芝口一門(現在の汐留の角)の駅前にあったのですが、強制疎開(防空対策として行政命令により強制的に行われた疎開)により立ち退き命令が出て、田村町1丁目(現西新橋)に移りお店を再開しました。

空襲後の実家周辺は一面焼け野原

空襲のときは家族で日比谷公園に避難しました。周囲に火の手が上がり、明るる日の朝、家に戻ると一面焼け野原でした。その時愛宕山に避難した友人から聞いた話によると、愛宕山から新橋が燃えているのがよく見えたということです。情報が公開されていなかったため、当時の戦況については全く分かりませんでした。天気予報すらなかったのです。今考えるととても恐ろしいことです。

実家の食堂も焼けてしまったため、空襲後は外食券食堂組合の中で戦火を免れたお店の手伝いをして働きました。

焼土で再開した家業の食堂

空襲で焼けたところに「田村町食堂」としてバラックで再開し、戦後の開発による立ち退きに遭うまで、田村町1丁目でお店を経営していました。父親が、空襲で焼けた電柱とタン板を使ってバラックを建てていたことが今でも記憶に残っています。

インタビュー ● 中嶋弘さん 房子さんご夫妻

二度と起こしてはならない戦争の語り部として…

房子さんのお話

父と別れて疎開した思い出

私は昭和19年(1944)、小学校2年生のときに茨城の笠間^{かさま}に母親とともに縁故疎開しました。母方の父が行商をしていたこともあり、笠間で家を買って庭に畑をつくって何とか生活できましたが、集団疎開した他の同級生は疎開先では食糧が乏しく、多くの児童が栄養失調になりました。

疎開中は月1回疎開先にやってくる父を笠間の田舎駅で長時間待っている時がいちばんさみしかったのを覚えています。戦争中は、徴兵されたり疎開したりして、どの家も家族全員がそろうことはありませんでした。

大使館との商いもあり、憲兵の監視を受ける

父は当時、「室内装飾裁縫業」と呼ばれる職業に就いていました。建物から光が漏れて空襲の時敵機の目標にならないように、小学校や病院などの公の建物にはすべて暗幕が使用されており、父はその暗幕を作る作業所を営んでいたのです。田村町3丁目(現在の新橋3丁目)の吉本加工所という作業所です。

大使館内の装飾品も製作していたため外国の人ともつながりがあったので、自宅にはラジオなど当時珍しいものが置いてありました。それを憲兵が監視しにきて、悪いことをしていないのにとても嫌な気持ちになったのをよく覚えています。父の工場で働いていた奉公人たちは皆徴兵されたと聞きました。奉公人たちはフィリピンなどの南方に行き、半分くらいは戦死してしまったそうです。

空襲を受けて実家周辺は焼け野原に

空襲で実家周辺の地域は焼け野原になりました。父の工場を手伝っていた兄は、建物が燃える中、工場のミシンを守ろうとミシンを窓から放り投げていったそうです。不発の焼夷弾も放り投げたと聞きました。今の新橋駅付近は火の手が強く、花火のようだったと兄は話しておりました。

終戦4年目に港区に戻ったものの…

戦争で生き延びた人は復興のために精一杯努力しました。小学校3年生で終戦を迎え、私が疎開先から港区に戻ってきたのは中学校1年生のことで、当時校舎もなかった芝浜中に通いました。

私が東京に戻ってきた頃には戦後の復興も進み、終戦直後に見られた新橋駅前の闇市もおさまっていたものの、まだ町は落ち着いた状況ではなく、新橋では毎晩のように火災が起きていたことを記憶しています。

お二人からのメッセージ

子どもたちに伝えたいこと…

最近では戦争を知らない世代が増えました。子どもに暗い戦争の話は聞かせたくないという親も少なくないと感じます。戦争があったということさえ知らない若者もいるということを聞いたことがあり、とても寂しく思います。

当時の話をすると、子どもはとも興味を持ってくれます。戦時中、食べ物がなく辛い思いをした話をすると、次の日から子どもが給食を残さなくなったと担任の先生から報告をいただいたこともありました。子どもたちは純粋な気持ちで聞き、受け止めてくれます。周りの大人は子どもたちが戦争体験の話に触れる機会をもっと多くつくってほしいと思います。

二度と戦争は起こしてはならないという私たちの想いを、これからの世代にも引き継いでいってほしいと強く願います。

*外食券…第二次世界大戦時および戦後の主食の統制下で、政府が外食者のために発行した食券



空襲の主力となったB-29戦略爆撃機による爆弾投下(National Park Service-Disclaimer)



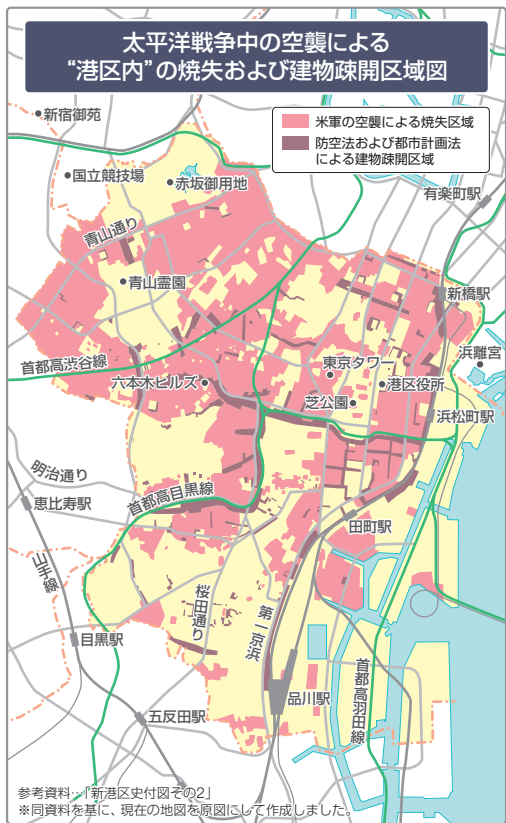
空襲を受ける東京市街
("Tokyo burns under B-29 firebomb assault." May 26, 1945.
*Copyright : US Army Air Forces
(PD-USGov-Military-Army))

終戦の日特集

8月15日、終戦の日。東京では、昭和19年(1944)11月～20年(1945)8月まで122回、延べ4,800の爆撃機から爆弾11,000発、焼夷弾389,000発が投下され、10万人余が死傷、300万人が被災しました。戦後65回目の終戦記念日。ここに「平和を願う」記事を集めました。



*モノクロ写真はすべてフリー百科事典「ウィキペディア」より



SiBA Review. 平和の灯 復興の中の映画館

65年目の夏。平和よ永久に

◆昭和20年(1945)5月25日夕刻にB29爆撃機500機から渋谷、港、中央、中野一帯に投下された爆弾・焼夷弾で3,000人が死亡し、18,000人以上の重軽傷者を出した。港区青山5丁目で体験をしたM子さん(当時10歳)の手記には、『ものすごい数の焼夷弾が降って台風のように火と風が吹き荒れた。翌朝、一面焼け野原、数時間前まで生きていた人が防空壕や道端で誰が誰が分からなくなった焼死体となっていた。踏まないで歩くのは大変、やっと家の近くまでくると、父が茫然と立っていた。お互いに死んでしまったと思っていたから、無事喜び合い抱き合ってた泣いた』とある。そして、世界初の原子爆弾が8月6日に広島、9日に長崎に投下された。

◆戦中・戦後の暮らしを語る者も高齢化し、少なくなっている。新橋駅での鉄道切符や闇物資を求めるリュックの列、ガード下で暮らす戦災孤児、傷痍軍人の妻でる軍歌、そしていや応なしのDDT(ノミシラミなどの殺虫剤)の白き洗礼を話しても今の人は理解できない。

戦争が心まで破壊し、その修復に映像の魔術師達が挑戦した。再び自由に映画を作れる喜びで監督の指示の下に俳優が演じ、カメラマン、大道具、結髪、録音、進行等の裏方が支えた。昭和29年(1954)～32年(1957)の娯楽の中心は映画、一人平均で月1回は観ていた。港区も全盛期には映画館は13館を数え、今も営業を続けているところもある。「映画館」の看板とスピーカーからの流行歌で暮らしの中に平和の喜びが伝わってきた。夏は暑く、冬は寒い、固い椅子、立ち見で触れ合う肩にも文句を言う者はなかった。映写機のカタカタと規則正しい乾いた回転音と光線のかたに笑い、泣き、そして失われた感情を取り戻した。銀幕の衣装やセリフを真似、海外の豊かな暮らしに夢を膨らませた。



(撮影 ■ 佐藤 剛志)

現在も営業を続けている映画館「新橋文化劇場」新橋3-25-19

「山椒大夫」「近松物語」と古典文学を大胆に映像化することに成功した。戦時中には禁止されていた洋画であったが、アメリカからは「波止場」「偽りの花園」、そして「ローマの休日」では女性の美しさと紳士ぶりのために息をついた。フランスからは「嘆きのテレーズ」「恐怖の報酬」「陽気なドン・カミロ」「裁きは終りぬ」「しのび逢い」「禁じられた遊び」と映像と大胆なストーリー展開、そしてその音楽に酔った。イタリアからは「道」「鉄道員」に喜しを重ね合わせ

◆当時の邦画では、昭和28年(1953)に東映の「ひめゆりの塔」が大ヒットし、沖縄では後にも先にもいちばん観られた映画となった。スクリーンに流れた実名が亡き人と重ね合わせ涙を誘った。松竹は「東京物語」「日本の悲劇」「女の園」に続く、「二十四の瞳」で堂々、上映記録を塗り替えた。東宝は「山の音」「晩菊」「夫婦善哉」「浮雲」と男女の機微を描いた文学作品を取りあげて、制作が大きく遅れた「七人の侍」に社運をかけた。日活は「黒い潮」「女中ッ子」「警察日記」で庶民の日々を活写した。大映は「雨月物語」「祇園囃子」「雁」



港区が平和都市宣言を行って20年目の平成17年(2005)8月15日、広島市の「平和の灯」、長崎市の「ナガサキ誓いの火」、福岡県星野村の「平和の火」を合わせて灯火した「平和の灯」(区立芝公園)が設置されました

た。イギリスからの「エヴェレスト征服」「ロミオとジュリエット」では映像美に魅了された。

◆世界中が平和をテーマに映画を制作した。「原爆の子」もその例になる。サンフランシスコ平和条約が締結される昭和26年、石川先生が被爆した教え子・敏子(12歳)を見舞う。敏子は余命いくばくもない。「お父さんやお母さんは？」「みんな死んじゃったんです。(略)うちね、先生、いつまでも平和が続

きますように、神様をお願いします」「えらいわ」「ねえ、先生、戦争が悪いことは、うちがいつう知っているような気がするんです。戦争はみじめです」

◆65年前に一瞬にして命を落とした者、余命を永らえた者、その平和の願いが永久になうよう芝公園の一角にも「平和の灯」がほのかに灯りを放っている。

(文 ■ 佐藤 剛志)

参考文献:「昭和の戦争記録―東京目黒の住民が語る―」(岩波書店 1991)

ビルの屋上でイチゴ狩り？

去る5月26日(水)、JR田町駅前の「第一田町ビル」の屋上でイチゴ狩りが行われました。都会の真ん中でイチゴ狩りを楽しんだのは、地域の保育園の3～4歳児12人です。天気予報は雨模様でしたが、なんとか天気もち、時おり陽も差し込むほどの好天候に恵まれました。

株式会社田町ビルの中村社長に話をお伺いしたところ、地球温暖化の防止と地域の方々に楽しんでいただくことを目的に昨年の5月から屋上緑化に取り組んでいるそうです。

菜園、花壇、芝生を合わせると約220m²もあり、このうち菜園は約20m²で、12月～5月がイチゴ、6月～11月がさつまいもとそれぞれ夏と秋に収穫できるように分けて育てているそうです。今後は菜園を徐々に広げ、地域の方々もお呼びしたいとのことでした。

イチゴ狩りを初めて体験する園児も多くみんな興味津々、まだ白い実を摘んでしまったり、入れ物のふたが閉まらないほどたくさん摘んだり、一生懸命に頑張っていました。イチゴを摘み終わった苗は、ビル側の計らいで実とともに園児たちにプレゼントされました。

最後は、自分たちで摘んだイチゴを手にして記念撮影。ビルの屋上のさわやかな風の中で、園児たちの顔も自信と喜びに満ちあふれていました。



info
第一田町ビル
芝5-33-8

オーストラリア大使館が“オープンデー”を開催



オーストラリア大使館では初めての試みとなる、地域の人々を大使館が招待する“オープンデー”が開催されました。

6月3日(木)午後3時から近隣の3町会(三田綱町自治会、三田一丁目町会、三田二丁目一交会)がオーストラリア大使館に招待され、約60名の方が参加しました。

会場には両国の国旗が掲げられ、アリスティア・マレー・マクレーン大使や代表の町会長さんのスピーチがあり、和気あいあいの雰囲気で行われました。オーストラリア国についてのレクチャーを聞いた後はお庭に出るガーデンパーティです。オーストラリアの伝統的なお菓子「ラミントン」(チョコレートとココナッツでコーティングされた、四角い形のお菓子)もテーブルに並べられ、初夏の風を受けながらアフタヌーンティーを楽しみました。参加者から「大使館はふだん入れない所なので、今日はうれしい」という声も多くきかれました。



ここは江戸時代、徳島に領地のあった蜂須賀家の敷地でした。昭和27年(1952)にオーストラリア政府がこの地を購入した当時は、ケンブリッジ大学への留学経験がある蜂須賀正韶侯爵・正氏父子が建てたイギリス風の邸宅がありました。平成2年(1990)にメルボルンの建築家によって事務棟、大使公邸、職員官舎が建てられ、モダンな現在の姿になりましたが、本館の裏手にある庭園には、イギリス風の東屋や、桐や鳳凰の模様が見える大きな灯籠に、蜂須賀家の面影が残っています。春には桜が見事に咲き誇ると、大使館公使・総領事でもあるビル・ジャクソン氏が説明してくださいました。

芝地区にはオーストラリアのほかにも大使館が9つあります。このような地域と大使館との交流がさらに深められ、地域での助け合いにもつながるといいですね。

(文 ■ 伊藤 泰子)



春には、庭園に見事な桜が咲き誇ります
(写真提供: オーストラリア大使館)

info
オーストラリア大使館
三田2-1-14

世界を知ろう! カンボジアを知ろう!!
国際協力実践講座に参加しませんか？

小山内美江子 国際ボランティア・カレッジでは、「JHP・学校をつくる会」代表小山内美江子の国際協力に対する理念と経験、並びにJHPが活動するカンボジアに関する知識を活かして、国際協力や国際理解、その他NGO等の理解に役立つ講座、またカンボジア研修など、学びと体験の場を提供しております。現在、第5期生を募集しています。

【日 程】2010年9月11日～2011年3月26日
【参加要件】18歳以上、原則カンボジア現地研修に参加可能な人
【定 員】30名 【主催団体】JHP・学校をつくる会
【開催場所】区内施設 【聴 講 生】1講座から受講可能な聴講生も随時募集しています。
※費用や手続き方法はホームページまたは事務局までお問い合わせください。

●問い合わせ先
特定非営利活動法人(認定NPO法人)JHP・学校をつくる会
小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ 事務局(担当: 木村)
〒108-0014 東京都港区芝5-26-16 読売理工学院ビル6F
TEL03-6435-0812 / FAX03-6435-0813 / E-Mail: college@jhp.or.jp
URL: http://www.jhp.or.jp/college/index.html

第3回ハマサイトの夏祭り

今年も汐留ビルディングでは「ハマサイトの夏祭り」を開催します！
皆様のご来場をお待ちしております。

【日 時】8月27日(金)18時～21時30分
【場 所】浜松町駅北口駅前広場、汐留ビルディング外構
【イベント】グルメ屋台、盆踊り、ステージライブなど



「チーム・バチスタの栄光」の海堂尊氏が大いに語る

◆芝歯科医師会・麻布赤坂歯科医師会 創立90周年記念講演会

【日 時】11月20日(土)15時～16時30分
【場 所】赤坂区民センター(赤坂4-18-13 赤坂コミュニティぶらざ内) 【参 加 費】無料
※往復ハガキによる応募が必要です。下記までお問い合わせください。

●問い合わせ先 芝歯科医師会 TEL 03-3431-7716 / 麻布赤坂歯科医師会 TEL 03-3403-1402

「お口の健康フェスタ」開催

◆区長による8020達成者表彰 ◆港区立小・中学校の児童・生徒による研究発表
◆ゲスト: 歌手 奥華子さん(映画「時をかける少女」の主題歌「ガーネット」「初恋」)
◆お口に関する粗品も用意しております。

【日 時】10月23日(土)13時～17時
【場 所】高輪区民センター 【参 加 費】無料

●問い合わせ先 みなと保健所保健サービスセンター TEL 03-3455-4772
芝歯科医師会 TEL 03-3431-7716 / 麻布赤坂歯科医師会 TEL 03-3403-1402

シリーズ: 在勤者の視点で防災を考える

9月1日(水)は防災の日 “日ごろから高めよう、防災意識”
手動蓄電タイプのラジオを持ちましょう！

大災害発生直後は混乱状態になり、不確実な情報や無責任なうわさが飛び交うことがあります。そんなときに役に立つのがラジオです。どこにも持ち運べて、それも停電時に手動で蓄電できるタイプのラジオです。携帯電話の充電もできるようになっていれば、さらに心強い味方になります。ラジオに限らず、防災の日を前に、わが家の防災グッズを点検しましょう。いざという時のために…。

(取材 ■ 川崎 望房)

「みなとコール」は
暮らしの疑問にお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休／午前7時～午後11時

※英語での対応もいたします。

ゴウ(は)ナニ ミナト(コールです)

TEL 03-5472-3710
FAX 03-5777-8752

Eメール: info@minato.call-center.jp

警視庁犯罪被害者
ホットライン

被害者や家族の相談窓口です。

迷わずに
勇気を出して
相談してください



匿名でもOK 秘密厳守 お気軽に

TEL 03-3597-7830
FAX 03-3592-6840

愛宕警察署

芝地区地域情報誌・編集委員を募集しています！



芝地区の話題を
発掘し、取材していただく
地域情報誌・編集委員(記者)
を募集します

【対 象】芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人
【内 容】地域の話題の収集、取材、写真撮影、原稿作成など(年間4回発行予定)1回の取材などで平日の昼夜間に2時間程度、発行予定ごとに平日夜間、1回編集会議への参加があります。

【申し込み】氏名、住所(在勤、在学の方は所在地)、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所協働推進課まで、FAXまたは郵送でお申し込みください。

【そ の 他】報酬等の支払いはありません。

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
天津由理香 / 伊藤泰子 / 岩崎秀雄 / 川崎望房 / 清田和美 / 日下部理絵 / 桑原庸嘉子 / 小知和千佳子 / 小林真紀子 / 佐藤剛志 / 柴崎郁子 / 柴崎賢一 / 千葉みな子 / 張簡光輝 / 日尾佳世 / 森明

★今後の発行スケジュールは次の通りです。
H22.11.20発行(第17号)、H23.2.20発行(第18号)、H23.5.20発行(第19号)、H23.8.20発行(第20号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。